

中京テレビ放送

事業の名称

“リアル”と“仮想空間”で学ぶメディアリテラシー活動

共同で事業を実施した団体

㈱CTV MID ENJIN (制作請負)、monoAI technology㈱(メタバース空間制作)、湯会㈱ (メタバーススタッフ、機材)

事業概要

情報が氾濫し、誰もが情報を受発信できる現在、手に入れた情報を鵜呑みにせず、自分の目で吟味し、どのように活用するか判断する力「メディアリテラシー」を身につけるための授業を、①座学、②メタバース空間での取材～原稿作成、③原稿の発表——まで一体的に、3校に対してそれぞれ実施。講師は中京テレビ放送のアナウンサーが務めた。

< 1校目 >

開催日：2023年6月27日（火）

対 象：春日井市立神領小学校 5年生 90名

時 間：約100分×3回

< 2校目 >

開催日：2023年11月22日（水）

対 象：第一学院高校四日市キャンパス 17名（学年特定せず）

時 間：約100分

< 3校目 >

開催日：2023年12月13日（水）

対 象：一宮市立大和中学校 2年生 175名

時 間：約100分×3回

事業の成果

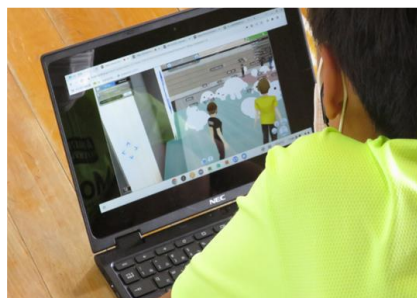
①アナウンサーによる座学

アナウンサーと一緒に、情報のさまざまな入手方法、「一次情報」「二次情報」の違いとそれぞれのメリット・デメリットについて学び、中京テレビ放送がニュースを放送するにあたって、どのような取り組みを行っているか、クイズを交えた動画で紹介。▽一つのニュースを伝えるためにもとても多くの人数が関わっていること、▽一次情報を大切にして、何度も複数の目で確認して正確で信頼性の高い放送につなげていること——を知ってもらった。



②メタバース空間での取材体験～原稿作成

架空の町で広がっている噂やさまざまな情報について、4人の取材対象者に対して、メタバース空間で「当事者への取材」＝「一次情報を得ること」を体験。1校目での授業の反省点を受け、2校目以降はメタバース空間をリニューアル。当初、参加者はグループごとに決められた取材エリアに入って、取材に答える人は1人で4役をこなしていたが、取材対象者を4つのエリアに分けてわかりやすく配置、空間内に取材の注意事項を掲示するなどの工夫により、参加者たちはゲーム感覚で広く美しい空間内を自由に動き回る楽しさを実感していた。



また、学校側で事前に授業を実施していただき、グループ分け、質問事項、グループ内の役割（取材先、発表者）を決めておいたことで取材をスムーズに進めることができ、時おり鋭い質問も出るなど有効な体験になった。取材後はグループごとに話し合っ、「何を伝えたいか」を考え、1分程度の原稿にまとめた。原稿はリードのみ記載されており、取材によって得た情報で本文中の空欄を埋めて完成させた。また、ニュースのタイトルもそれぞれ考えた。

③キャスターになって作成した原稿を発表

できあがった原稿をグループの代表者がカメラの前で発表した。テレビ局ならではの演出として、ニュースのタイトルや発表者の名前がテロップ表示され、原稿に合わせて映像も出した。また、アナウンサーがそれぞれの原稿と発表について講評。独自の視点や原稿読みの丁寧さ、ユニークなタイトルなど、良いところを引き出す形でコメントした（発表した映像データは後日学校にお渡しした）。



同じ設定や取材先でもグループによって伝えたい内容に違いが出ることや、ニュースを放送するにあたってどのような取り組みが行われているか、など、多くの気づきを得られ、正確な情報を見極める力を養うことにつながった。

「学校にテレビ局がやってくる」という非日常の体験とワクワク感がある授業内容は参加者、学校側ともにとっても好評だった。また、中京テレビ放送としてもタッチポイントの増強、中京テレビグループとして掲げている「SDGsポリシー」の柱である「子ども支援」の具現化につながる企画となった。

反省点としては、メタバース空間への接続に時間がかかることと、学校のネットワーク環境で問題が発生した場合は機能なくなってしまうため、リアル取材に急きょ切り替えた回が1回あった。また、発表人数が多くなる回では座学の分量をカットせざるを得ず、「一次情報」「二次情報」などに関する学びの部分が薄くなってしまった。同時接

続の適正人数は20人程度が上限と考えられる。

【児童・生徒からの感想抜粋】

- ・ 情報は、すぐに信じるのではなく、何度も確認することが重要だと思った。
- ・ ネットを見るときは、全部が本当だとすぐに思わないこと、ほかの考えもあるということを大切にしたい。
- ・ 一つの情報をニュースで流すために、何度も原稿を見直すことや、たくさんの方がそれぞれの役割で協力してできあがっていることが分かった。
- ・ ニュース番組が取材の段取りを決めたり、何度も原稿や情報を確認したうえでできあがっていると知ってすごいと思った。実際原稿を作る時にどうやって情報を絞って時間内に伝えなければいけないか苦労した。これからニュース番組を見る時はこんな苦労があったとか、ここを強調して伝えたいのかなどに注目しようと思う。
- ・ 取材ができるバーチャル空間が面白くて楽しかった。
- ・ テレビをもっと見ようと思った。
- ・ 同じ出来事を取材しても、取材した人によって内容が少しずつ変わるということを学んだ。
- ・ 情報の信頼性を見極めることの大切さを学んだ。
- ・ インタビューや取材の難しさを実感した。

【先生からの感想抜粋】

- ・ アナウンサーの方が来てくれることで、子どもたちの“話を聞こうとする気持ち”が高まっていた。
- ・ メタバースを通じて取材することで、すごく特別なことができたという達成感を味わっている児童が多かった。
- ・ みんなの前で発表する際に、映像などを加えて映してもらえることで、児童たちはびっくりしながらも楽しんでいた。
- ・ 発表動画をいただけて、生徒たちがとても喜んでいました。
- ・ メタバースはとても先進的な取り組みで面白く、貴重な体験だった。また、キャリア教育の意味でも生徒のためになった。

以 上